

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	07	0401	公共交通確保対策事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》
公共交通サービスの実現

《事業開始の背景》
バス利用者の減少による民間路線バスの撤退、市街地の活性化や合併による直通バスの確保などの課題に対し、公共交通を必要とする市民等にとって、快適で便利かつ持続可能な公共交通サービスを提供

《事業概要》
○運行委託
大迫地域公共施設連絡バス、市営バス
○運行費補助
市街地循環バスふくろう号、大迫・花巻地域間連絡バス、県立中部病院連絡バス、予約乗合タクシー（石鳥谷・東和地域）

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 市内の公共交通機関が利用できる市民の割合	%	目標	78	78	78
		実績	75	72	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
暮らし	建設部	都市政策課	筑後 貴之	566

事業費	25年度	当初(現計)	補正	25年度	26年度
財源内訳	89,694				
国県支出金	10,017				
地方債	7,700				
その他	1,687				
一般財源	70,290				

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

運行方法

①バス等運行事業補助金 51,372千円
市が決定した運行内容により運行事業者が運行を実施し、補助対象経費から運賃収入を差し引いた額(赤字)を補助金として交付する。

(1) 市街地循環バスふくろう号	7,417千円	岩手県交通(株)
(2) 大迫・花巻地域連絡バス	8,226千円	岩手県交通(株)
(3) 県立中部病院連絡バス	1,179千円	岩手県交通(株)
(4) 予約乗合タクシー(石鳥谷・東和)	11,537千円	花巻地区タクシー業協同組合他
(5) 広域生活路線等補助	23,013千円	岩手県交通(株)

②バス等運行業務等委託料 36,526千円
市が決定した運行内容により運行事業者に対し運行業務を委託。または、その他の業務を委託する。

(1) 大迫公共施設連絡バス運行業務	265千円	岩手県交通(株)
(2) 市営バス運行業務(5路線)	35,460千円	(株)東和町総合サービス公社
(3) 市営バス公金収納業務	782千円	(株)東和町総合サービス公社
(4) 火災警報装置点検業務	9千円	
(5) 病院デマンド看板撤去業務	10千円	

③その他 1,796千円

- ・報酬 96千円 花巻市地域公共交通会議委員報酬
- ・需用費 1,510千円 時刻表等印刷製本、消耗品 ほか
- ・土地借上料 190千円 市営バス回転所土地借上料

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	07	0401	公共交通確保対策事業

総合計画	政策	交流・移住人口増加で訪れたい・住みたいまちづくり	施策	2-6	快適で便利な道路網と公共交通体系の構築
目的	公共交通サービスの実現				
対象	市民、観光客				
意図	自主運行バス等を運行することにより、公共交通を利用できる市民等の割合が向上する。				

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○運行委託
大迫地域公共施設連絡バス、市営バス

○運行費補助
市街地循環バスふくろう号、大迫・花巻地域間連絡バス、県立中部病院連絡バス、予約乗合タクシー（石鳥谷・東和地域）

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態 共催 実行委員会・協議会 事業協力・協定 後援・協賛 補助・助成 委託

活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 予約乗合交通登録者数	人	計画	1,750	1,750	1,780
		実績	1,800	1,856	
② 自主運行バス等利用者数	人	計画	77,000	78,500	78,500
		実績	80,720	80,996	
③		計画			
		実績			
成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 市内の公共交通機関が利用できる市民の割合	%	目標	78.0	78.0	78.0
		実績	74.7	71.5	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

・区域型の予約乗合タクシーの運行継続により、従来停留所から遠距離にある利用者も利用することができ、公共交通空白地域の解消が図られている。
 ・民間路線バスの路線廃止に伴い、定時定路線型の予約乗合タクシーの試験運行を開始するなど、公共交通を利用できる環境の維持を行った。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

・市政懇談会等において、ふくろう号の路線拡大やふくろう号並みの低料金への軽減への要望が寄せられている。

目的妥当性	<p>公共関与の妥当性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	<p>・バス交通の利用者数の減少が進むなか、民間路線バス事業者は不採算路線の減便や路線廃止を余儀なくされ、公共交通を必要とするいわゆる交通弱者の足を確保するためには、自主運行バス等の運行を行うことが必要であることから、公共関与は妥当である。</p>
有効性	<p>成果の向上余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	<p>・既存の定時定路線型の路線バスに替えて、区域運行型の予約乗合タクシーや公共交通空白地域への新たな交通手段の導入により、成果の向上が見込まれる。 ・また、時刻表やバスマップの配布のほか、市広報誌への掲載により、バス交通の重要性を広く周知し、利用促進を図る。</p>
効率性	<p>事業費・人件費の削減余地</p> <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	<p>・今後、公共交通利用者の減少により、民間路線バスの撤退などによる公共交通空白地域の拡大が懸念される。市民の公共交通を維持確保するためには、新たな自主運行バス等の運行も検討されることから、事業費の削減は難しい。</p>
公平性	<p>受益と負担の適正化余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 適正である	<p>・合併前の地域の実情に応じて運行された経過や民間事業者（バス・タクシー）との競合の問題もあることから、運行内容や料金等は各事業ごとに設定してある。</p>

《総合評価》…上記評価結果の総括

・予約乗合タクシーの普及もあり、僅かながらも公共交通空白地域の解消に寄与している。しかしながら、民間バス路線のみならず、市街地循環バスふくろう号を除く全ての自主運行バス（予約乗合タクシーを含む）においても利用者数が減少傾向にあることから、利用者のニーズを把握し利便性の向上を図る必要がある。